

# E.L.F.

2024  
90  
fall

EQUALITY

LIBERTY

FRATERNITY

## 特集

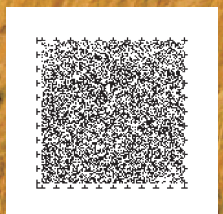
であ ひょうげん  
出会いと表現～あることをないことにしない～  
ばんそうこう かい だいひょう おおわん のぼる ..... 1  
絆創膏の会 代表 大湾 昇さん

## ココって？ いったい どんなトコ。

わ か やま こえ  
和歌山グループ声 ..... 5  
かいちょう にしやま もとこ  
会長 西山 基子さん

## お知らせ

..... 9



特 集

出会いと表現  
～あることをないことにしない～

絆創膏の会代表 大 湾 昇

1、はじめに

ある教職員研修会後、20代半ばの先生が質問をくれました。「先日、幼なじみたちと海へ遊びに行った時のことです。1人の友人と同和問題学習についての会話になりました。友人は『学校の授業なんかで同和問題に触れるから、いつまでも部落差別は無くならないんじゃないのか？教えなければ知っている者が減って、そのうち差別も無くなっていく。』と言いました。同和教育を教えている立場上反論したかったのですが、友人の言葉に納得してしまう自分もあり何も言い返せませんでした。どうすればよかったのでしょうか？」との内容でした。

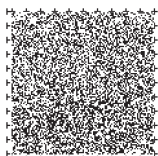


昔からある「寝た子を起すな論※1」に、私なりの経験談を伝えました。

※1 寝た子を起すな論…同和地区のことや差別があることを口に出さずに、そっとしておけば、自然に差別はなくなるという考え方。

2、立場の自覚

中学2年生の秋、母とスーパーへ買い物に向かっていた。いつもよく喋る母がやたら静かに運転していたのをおぼえています。突然、「昇、うちが同和地区って知ったで？」と尋ねてきました。「何となくやけど気付いとったよ。」と私は答えました。続いて、「ほな、うちが同和地区ってことをどう思う？」と質問してきました。なので「部落差別をするのは年寄りの世代、僕ら若い世代は部落差別する意識やないんよ。そんな差別心のない若い者に同和教育なんてするから、知らない者が知って行って差別が続いていくんよ。僕は隠して生きていくつもりだよ。」と伝えました。それを聞いた母がまた黙りました。そこからの車



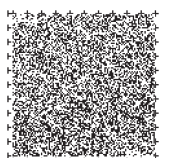
中、買い物の中、母はずっと黙っていました。どんな思いを持って私に同和地区出身であることを伝えようとしたのでしょうか。何故、私は誰から教わることなく寝た子を起すな論を身に付けていたのでしょうか？私は隠したまま学生生活を送っていきました。

### 3、初めての差別体験

高校3年になって、初めてお付き合いする彼女ができました。学年が1つ下、町外出身の女の子でした。その子とは、毎日電話のやり取りをしていました。いつものように電話がかかってきたので、「はい、もしもし大湾です。」と出ると「あっ、昇さん…」と声で気付いてくれました。ですが急に泣き出したのです。少し落ち着くのを待って、「どうしたの？」と尋ねました。すると「あんな…昇さんの家って、アレなんだろ？」と言ってきたのです。そのアレが指す言葉の意味を私は即座に理解しました。彼女はアレという2文字を使って、「大湾の住んでいる場所は同和地区なんだろ？2人が付き合ったら、親や親戚から交際を反対されるかもしれない。耐えられる自信がない。」と言っていると分かったのです。分かると同時に、私はショックを受けました。自分の世代には部落差別は無いと信じていたのに、生まれて初めて差別的な発信をしてきたのは同世代の彼女でした。ショックは受けたものの、同時に「どこでバレたのだろう？」との疑問も浮かんできました。母に自分の立場を教えられてから、家族や教師とも同和問題の話をしていません。同級生ともそんな話をしたこともなかったにも関わらず、年下で町外出身の彼女がどこからともなく情報を仕入れ、私に問題をぶつけてきたのです。大声で泣く彼女に、「言わなければバレへんよ。」と勇気づけるつもりで返しました。間髪入れず「そんなの隠せる訳ないだろ！」と言り返されました。苦しくなった私は、一方的に受話器を下ろしました。その日を境に、私から彼女の家へ電話をかけられなくなりました。彼女はそんな私に毎日電話をかけてきてくれました。しかし毎日だったのが2日に1回、3日に1回とだんだんかかって来なくなりました。そして全く連絡を取らなくなり、我々の交際は自然消滅したのです…。

### 4、気づき

彼女との交際が終わってから1年ほどが経った時、ふと「何が駄目だったのか？」と自問する日がありました。過去を振り返って引っかけたのは、母から立場を告げられた時に返した「言わなければバレへんよ。」という言葉でした。意味は隠すということ。隠したいことは生まれた地域。隠したい理由は、生まれた地域に対して自らが悪いイメージを持っていたから。つまりは、「そこに生まれ育った自分を自分で部落差別している」ことに気付い



たのです。

それから「自分を差別しない！」との目標を持って、同和問題や部落差別問題について勉強をし直しました。前向きに勉強すると、不思議なことに寝た子を起すな論を語る人と出会わなくなりました。真剣に学習をすることで、どんどん自分を認められるように変わってきたのです。私は、寝た子を起すなというのは自分の人生を他人に委ねていることだとの考えに至りました。

「そっとしておく」のは、自分の行動に自信がないから、誰かが行動してくれるのを待っているだけ。ひとごとになっているから、関係ないと目を背けて生きていけるのだと考えるようになりました。差別とは、生まれた場所や特徴に理由をつけて、自分までも嫌いにさせる誘いなのだと解釈したのです。だからこそ、同和問題学習・人権学習は「差別はしてはいけないことと基準を持たせ、被差別の者に自分を好きになっていいと知らせる」学習だと思えるようになりました。

\*\*\*\*\*

質問をくれた先生に、「胸張って自分が好きと言える児童生徒を同和問題学習を通して増やしてあげてください。友人の言葉に反論できなかったかもしれませんが、引っかかりを持つことができた先生を、私は良い感性があると思いましたよ。」と伝えました。

私は以前の私のように、自分自身を差別する人を減らしたいと思っています。今までの出会いから、そういう道を自分で切り開いていきたいと考えています。

まだまだお伝えしたいことがありますが、紙面の都合上できません。

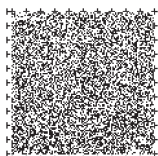
詳しくは、来たる11月12日(火) 14:00～、県勤労福祉会館プラザホープでの講演会でお話させていただきます。

## 同和運動推進月間特別講演会

### 出会いと表現 ～あることをないことにしない～

- 日時：2024(令和6)年11月12日(火) 14:00～16:00
- 配信：11月中にYouTubeでの後日オンライン配信を実施します。オンライン視聴をご希望の方はEメールまたは二次元コードでのお申し込みをお願いします。
- 場所：和歌山県勤労福祉会館 プラザホープ 4階大ホール  
(和歌山市北出島1丁目5-47)

定員  
200人  
(申込先着順)



- 講師：絆創膏の会代表 大湾 昇さん
- 申込方法：「名前」「連絡先（電話番号）」「所属先（あれば）」を明記のうえ、二次元コード・FAX・電話・Eメール又は郵送で下記までお申し込みください。

※お預かりいたしました個人情報については当センターで責任をもって管理し、本講座のみに使用させていただきます。

※手話通訳・要約筆記を設置します。

(公財)和歌山県人権啓発センター「同和運動推進月間特別講演会」係

FAX 073-435-5421 / TEL 073-435-5420 / Eメール kouen@w-jinken.jp

住所 〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛2階



【会場での受講】をご希望の方  
上記、二次元コードから



【オンライン視聴】をご希望の方  
上記、二次元コードから

相談 秘密  
無料 厳守

## 人権ホットライン

# 人権でんわ相談

さまざまな問題や悩みを抱える  
相談者に助言を行い、  
自身が主体的に問題を解決する  
ための支援を行います。

### 一般相談

- ①開設日時 / 毎週月曜日～金曜日  
午前9時～午後4時  
(祝日・12/29～1/3は休み)
- ②相談方法 / 電話相談  
TEL 073-421-7830

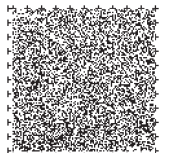
### 弁護士による無料法律相談

- ①開設日時 / 偶数月 第2・第4木曜日  
奇数月 第2土曜日・第4木曜日  
午後1時～4時(当日が祝日の場合はその翌日)
- ②相談方法 / 面接相談・オンライン相談  
TEL 073-435-5420 (お電話でご予約ください)

日頃、生活の中で人権に関するお困り事などがありましたら、  
お気軽にご相談ください。

### 2024(令和6)年度法律相談実施日

2024年10月10日・24日, 11月9日・28日, 12月12日・26日, 2025年1月11日・23日, 2月13日・27日,  
3月8日・27日



# フコっていったい どんなトコ



## 和歌山グループ声

今回は、「和歌山グループ声」会長の西山基子さんにお話を伺いました。

### ●グループ声の沿革について教えてください。

グループ声は、新聞や図書などの朗読、音訳を行うボランティア団体です。発足は1970年で、今年で設立54周年を迎えることができました。今でこそ、80人近い会員がいますが、始まった当初は5人からのスタートでした。私が小学生の頃、同級生のお母様に視覚障害があり、彼女が『学級便り』の内容を知りたいと望んでいることを知った私の母が『学級便り』を読んで差し上げたことがきっかけでした。その後は、民話の朗読や、和歌山市盲人協会と共同で料理本の録音テープ作成なども行いました。料理本の録音では、視覚障害のある方と共に料理を作りながら、「こんがり焼き上げる」や「小さじ1杯」といった視覚的情報が必要な表現について、どのように説明すれば視覚障害のある方にも伝わるかを勉強しながら、録音作業を行いました。

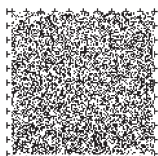
1976年には「県民の友」、1980年からは「市報わかやま」の録音と行政の情報発信の音訳ボランティアが始まりました。我が家にメンバーが集まり、父が趣味で持っていたオープンリールの録音機に声を吹き込んだ後、ダビングしてお渡ししました。当時の私はまだ小さく、両親が何をしているのか詳しくはわかりませんでした。まるで鶴の恩返しの中で鶴が機を織るように、夜遅くまでカチャカチャと音を立てて制作をしていました。

また、人権啓発センターの声のセンターだより「E.L.F.」は2002年にスタートし、(今、お読みいただいている)機関誌の情報を皆さんにお伝えしています。

### ●現在は、どのような方々が活動されているのでしょうか？

30～80代の方が活動しています。仕事をしながら活動している方や、退職された後、社会との接点を持ち続けたいとの思いから活動している方もいます。入会のきっかけは様々ですが、共通しているのは「誰かの役に立ちたい」という気持ちです。

また、ジュニア会員も活躍しています。小学2～6年生の約40人が所属し、和



歌山市が発行している「こども市報」や「朝日小学生新聞」を音訳しています。完成した音声は和歌山県点字図書館や近畿内の盲学校や支援学校に届けています。さらに、「サピエ」と呼ばれる、視覚障害者や視覚認識が難しい方々に対して情報を提供するネットワークにも音声を提供しています。先日、福井県にある学校から、「子どもたちが読んだ音声を授業で使わせていただいています」という感謝の手紙をいただきました。

## ●声を届けるときに意識していることについて教えてください。

私たちは特に3つのことを意識しています。

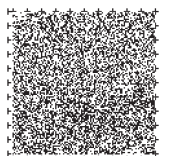
1つ目は、「アナウンサーのように読みの技術を磨き、日本語の正しいイントネーションで読むこと」です。私たちの声は、日本全国の幅広い年代の方々に聞いていただいていますので、聞き手にストレスを与えないようなるべく共通語で読むことを心がけています。ただ、技術の習得や正しいイントネーションの実践は難しく、すぐに身につけることはできません。そのため、勉強会を開いたり、録音中も気になる点があれば、その都度、アクセント辞典などで確認したりします。

2つ目は、「地声を大切にすること」です。聞きやすく、心地よい声の提供を心がけていますが、アナウンサーのように訓練された美しい声をめざしているわけではありません。私たちは、生まれ持った地声を大切にしています。書籍や家電の取扱説明書など、長時間お聞きいただく必要のある朗読では、つかれない声で読むことが重要です。その点、地声は長時間聞いていても疲れにくく、朗読や音訳では好まれています。

3つ目は、「話しかけるように読むこと」です。棒読みでも簡単な情報は伝えられます。ただ、人間の感情は豊かで複雑だからこそ、細かなニュアンスや温かみ、筆者の思いを伝えるためには、相手に直接話しかけるように読む必要があります。単に活字を読むのではなく、話しかけるように伝えることが大切です。

## ●機械音声ではない、人の声の魅力について教えてください。

機械音は読み間違いが起きない一方、一定のテンポで全てを読み上げるため、情報が伝わりにくくなります。一方で私たちは、読み間違いを標準的なイントネーションで読むように心がけていますが、完璧に読み上げることはできません。校正では気づかないほどの微細な訛りも混ざってしまいます。こうした「人間らしさ」や声の明るさ、感情といった要素が、聞き手に親しみや安心感をもたらします。また、私たちには「伝えたい」という確かな想い



があり、無意識のうちに緩急をつけたり、間を調整したりしています。こうした、機械にはない人間らしさや温かみが人の声の魅力です。

視覚障害者の方が以前に話してくださったのですが、視覚障害者は私たちの録音を2倍速や3倍速で再生し聞き取ることができるそうです。ですが、変化のない機械音では倍速再生をすると頭に内容が入ってこないとおっしゃっていました。将来的にはAI技術が進化し、機械音も自然に聞き取れる時代が来るかもしれません。その時まで、私たちは声を必要とする方々のために、言葉に魂を込めて丁寧に読み、情報を届け続けていきたいです。

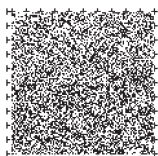
## ● 声のセンターだより「E.L.F.」ができあがるまで ●

- ① 声のセンターだより「E.L.F.」を担当してくださる方は5人います。皆さん、自宅で原稿の下読みをして当日に臨まれます。
- ② 録音当日は、カタカナ言葉や人名などのアクセントの確認や、図や写真の説明の仕方の打合せや確認をします。
- ③ 下読みが終わると、スタジオに入り録音します。

こちらが和歌山県視聴覚障害者情報提供施設（和歌山県点字図書館）にある録音スタジオです。スタジオは外部の声が入りにくい構造になっています。空調機能も完備されていますが、録音中は雑音が入らないように切っています。



スタジオに3、4人が入って録音をします。今回は3人で作業をしました。







マイクの前に座って録音を行います。アクセントの位置や読み間違いに注意するのはもちろん、マイクの向こうで聞かせている人に話しかけるように読むことを心がけています。



専用のソフトがインストールされたパソコンに音声を取り込みます。ここでは音量の調整を行い、一定の音量で情報をお伝えできるようにしています。

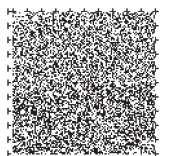


原稿を見ながら読みのチェックを行います。読み間違いがないか、一字一句原稿と見比べます。

④録音作業が終了した後、全員で再度音声のチェックを行います。雑音が入っていないか、間が詰まりすぎていないか、また開きすぎていないかを確認します。さらに、「て・に・を・は」からアクセントまでしっかりとチェックを行います。問題がなければ、専用の機械を使って音源をCDに焼き付けます。音声データができあがるまで、7時間ほどかかります。

このような大変な作業にもかかわらず、皆さんは楽しそうに作業されていました。続けられる理由を聞いてみると、「もともと本を読むのが好きであり、自分の趣味が他の人の助けになることを嬉しく感じているから」だそうです。また、「一人では続けられないけれど、みんなでやることで楽しく、やりがいを感じています。勉強会もあるため、上達を実感できるとともに、周りの方の成長も見るのができて嬉しい」と話してくださいました。

声のセンターだより「E.L.F.」は人権啓発センターや点字図書館、県立図書館などで試聴できますので、ぜひお聞きください。



## 大学生主体による人権啓発イベント

### 地域の中の誰も居場所～私も子ども食堂へ行っていいの?～

- 日時：2024(令和6)年11月24日(日)14:00～16:00
- 場所：和歌山城ホール 4階大会議室(和歌山市七番丁25-1)
- 講師：認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長 湯浅誠さん
- 申込方法：「名前」「連絡先(電話番号)」「住所または所属先」をFAX・電話・Eメールまたは郵送で下記までお知らせいただくか、二次元コードからお申し込みください。

定員  
100人  
(申込先着順)

※お預かりいたしました個人情報については、当センターで責任をもって管理いたします。

(公財)和歌山県人権啓発センター「子ども食堂」係

FAX 073-435-5421/TEL 073-435-5420

Eメール d-event243@w-jinken.jp

住所 〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛2階



## 子どもゆめ基金助成事業

### ONELYSの選手から学ぶバスケット教室

- 日時：2024(令和6)年11月30日(土)14:00～16:00
- 場所：武道・体育センター和歌山ビッグウエーブ 1階メインアリーナ(和歌山市手平2丁目1-1)
- 講師：ONELYS wakayamaの選手
- 内容：ONELYS wakayamaの選手からデフバスケットとバスケットボールのルールや技術、チームワークの大切さなどを学びます。聴覚障害やバスケットボール経験の有無、性別などに関係なく、誰でも参加できる内容となっています。
- 申込方法：二次元コードからお申込いただくか、FAX、または電話、Eメール、郵送にてお知らせください。

定員  
20人  
(申込先着順)

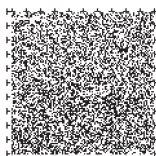
※お預かりいたしました個人情報については、当センターで責任をもって管理いたします。

(公財)和歌山県人権啓発センター「バスケット教室」係

FAX 073-435-5421/TEL 073-435-5420/Eメール event@w-jinken.jp

住所 〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2

県民交流プラザ和歌山ビッグ愛2階



# ふれあい人権フェスタ2024を開催します!



## 場 所

紀南文化会館 (田辺市新屋敷町1)

カッパーク/植芝盛平記念館下 (田辺市扇ヶ浜2-10)

## 日 時

2024 (令和6) 年11月16日 (土) 10:00~16:00

## 主な内容

- 〈大ホール〉 — ・ オープニング演奏 あすなろ楽団/大塔あすなろ会  
 ・ 長谷川義史さん絵本ライブ 絵本から生まれるもの  
 ・ 人権の詩2024表彰式  
 ・ 令和6年度和歌山県人権啓発ポスターコンテスト表彰式  
 ・ 映画上映「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」
- 〈小ホール〉 — ・ パネルディスカッション「幸せに生きるために」  
 ・ 地元中学生による合唱・吹奏楽部演奏
- 〈展示ホール〉 — ・ NPO等各種団体の活動紹介・各種相談などの様々なブース、  
 人権リボンラリーゲーム
- 〈研修室〉 — ・ 展示「災害と人権」  
 ・ ワークショップ「くまのこプログラム  
 ~幸せな人生を自分で築くためのレジリエンスを育てる~」
- 〈カッパーク・植芝盛平記念館下〉  
 ・ NPO等各種団体の模擬店・体験ブース等

## 主 催

和歌山県、(公財)和歌山県人権啓発センター、  
 和歌山県人権啓発活動ネットワーク協議会

## 後 援

和歌山県教育委員会、和歌山県市長会、和歌山県町村会

## 運営協力

ふれあい人権フェスタ実行委員会

入場

にゅうじょうむりよう

無料

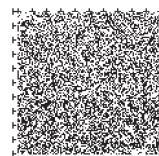
## お問い合わせ先

(公財)和歌山県人権啓発センター

TEL 073-435-5420

FAX 073-435-5421

Eメール jfesta@w-jinken.jp



ふれあい  
人権フェスタ  
2024

11/16日  
10:00▶16:00  
大ホールは9:30開場

紀南文化会館  
カッパーク

会場アンケートに答えて  
プレゼントをゲット!  
※数に限りがあります。

詳細地図はコチラ

大ホール【先着 1,000人】  
絵本から生まれるもの  
長谷川義史 絵本作家  
10:20~11:50 映画上映  
あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。  
13:30~15:37

小ホール【先着 250人】  
パネルディスカッション 10:00~12:00  
中学生による合唱、演奏もあります  
13:00~15:30

展示ホール  
NPO等各種団体のブース  
人権リフレンドリーゲーム

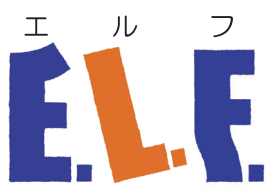
研修室  
展示：図書と人権  
ワークショップ：くまのこぼろぐらむ  
～自分と他者が生きていくためのリフレンドリーな暮らし～  
13:30~16:00

【主催】和歌山県、(公財)和歌山県人権啓発センター、和歌山県人権啓発活動ネットワーク協議会  
【後援】和歌山県教育委員会、和歌山県市長会、和歌山県町村会 【運営協力】ふれあい人権フェスタ実行委員会

お問い合わせ 〒640-8319 和歌山市手平 2-1-2 (公財)和歌山県人権啓発センター  
☎ 073-435-5420 📠 073-435-5421 ✉ jfesta@w-jinken.jp

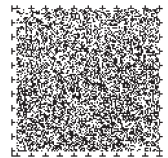
※都合により中止または、内容が変更する場合があります。

ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。



公益財団法人 和歌山県人権啓発センター  
Equality / 平等 Liberty / 自由 Fraternity / 友愛

- お問い合わせ 〒640-8319 和歌山市手平 2 丁目1-2 和歌山ビッグ愛2階  
TEL 073-435-5420 FAX 073-435-5421  
URL w-jinken.jp/ E-mail mail@w-jinken.jp
- 開館時間 9:00 ~ 17:45 \*人権ライブラリー・人権ギャラリーは、  
9:30 ~ 17:00
- 休館日 日曜・祝日、年末年始 (12/29~1/3)
- 交通案内 JR和歌山駅から徒歩:約 20分、バス:約 5分「手平出島」下車  
JR宮前駅から徒歩約 7分  
南海和歌山市駅からバス:約 20分「手平出島」下車  
有料駐車場あり 100円 / 50分 (30分以内無料)



2024年10月 発行